

# 支え合い育てて広げるコツ

## ～地域ケア専門職を対象とした住民サポーター養成オンライン研修から

主催：北海道社会福祉活動事務所 企画・実施：まちラボSAPPORO

### 第3回 支え合いを成功させるための研修マネジメント

NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)理事長

池田 昌弘氏

#### ◎専門職だけでなく、住民同士のつながりも

介護保険ができて20年余りたちましたが、昔は今ほど介護サービスがありませんでしたし、子供や孫と暮らす世帯や地域のつながりも豊かだったと思います。今は都市部も農村部もひとり暮らしや老夫婦世帯が増えてきました。介護保険サービスは増えてきましたが、気が付くと地域のつながりが随分弱くなったなと感じます。近年は、つながりの貧困社会を、関係性の貧困とも言われますが、社会的孤立や無縁社会などは、人と人のつながりが弱くなると、いろいろな問題が起きてきます。生活支援体制整備事業も生活困窮者自立支援法もつながりを豊かにしていく狙いがあると思います。これは専門職とつながるだけでなく、住民同士つながっていくことが大切です。

#### ◎「個別支援」が「孤立化支援」にならないように

毎日のようにお互いの家を行き来し、気にかけて関係があっても、訪問介護、デイサービスがつながることによって、「プロの人が来てくれるようになったからもう毎朝、声掛けしなくても大丈夫だね」「毎日にお茶飲みに行ってきたけど、デイサービスに行っていて不在だ」「行ってみたらヘルパーさんがいるので、ご遠慮しなげや」と、介護保険サービスが提供されることによって、かえって地域のつながりが弱くなるケースがあります。

介護保険に限らず、さまざまな個別支援が届けば届くほど、地域のつながりが弱くなる恐れがあります。もちろん個別支援は大切ですが、「個別支援」が「孤立化支援」にならないように地域のつながりを豊かにしていくことは、とても大切だと思います。「きょうは新聞が取られてないけど大丈夫かしら？」など、地域で気にかけているような関係と制度サービスを、うまく組み合わせていくようなことが今求められているのだと思います。

#### ◎支援サービスを普段の暮らしの中にも

住民の皆さんの普段の暮らしぶりを聞くと、案外いろいろな人たちとつながっているのが分かります。60代70代の女性の方々とおしゃべりしていると、よく「私達仲良し3人は多分、旦那の方が先に逝くと思うから、その時は3人の誰かのおうちで共同生活して、お互いに支えたり支えられたりして暮らしたいわ」と言われる方がいらっしゃいます。

1人では不安だけど、お友達同士お互いの得意分野を組み合わせたら、支え合って暮らしていけます。その状況をあえて「生活支援サービス」に置き換えてみましょう。▶みんなでのお茶飲みしてるのは「通いの場」▶しばらくお茶飲みに来ない人を心配して尋ねてみるのは「見守りサービス」▶車を運転中に友達を見つけて乗せてあげるのは「移動サービス」▶用事のついでに必要なものを買ってきてあげるのは「買い物サービス」▶おかずを多めに作っておすそ分けをするのは「食事サービス」。サービスではないのですが、付き合いの中にサービスに値するようものが含まれていたりします。こういうつながりがあれば、新たにサービスをつくらなくても、生活を支え、豊かにしていけるものと思っています。

#### ◎若いうちから支え合い意識が大事

幕別町では、コロナ禍でも、つながり合う暮らし方をテーマに、「そんな秘けつを幕別町民自ら語っちゃいます発表会」というイベントを2020年11月に開きました。このときは高校生にも参加してもらい、地域の大人や高齢者が支え合っている様子を取材してもらいました。これから人口が減り、高齢化がどんどん進行する社会になっていきます。若い人が高齢になった時に、サービスだけではなく、友人と互いに気にかけて、支えたり支えられたり、そのためには若いうちから意識することが大事です。

#### ◎畑が最高のリハ

福島市では5人のおじいさんたちが毎日、畑に集まっています。その畑の所有者は要介護4でしたが、くわをつえ代わりにして毎日畑に来て、友達に手伝ってもらいながら一緒に過ごしていました。そんな生活ですが、家族は心配して地域包括支援センターに「父をデイサービスに行かせたい」と相談をされて、包括C所長と生活支援コーディネーターが、このお父さんとお友達に話をうかがいました。するとこの方々は、「お父さんをデイサービスにつなぐのではなく、こうして過ごしていることそのものがデイサービスになっている」と考え、このお父さんが亡くなるまでの3年半、その居場所を支えてきたそうです。このお父さんにとっては畑が最高のリハビリになり、居場所にもなっていました。もしここがなくなれば、家族は安心するかもしれないけど、お父さんは生きがいを失い、友人関係も切れてしまっていたかもしれません。

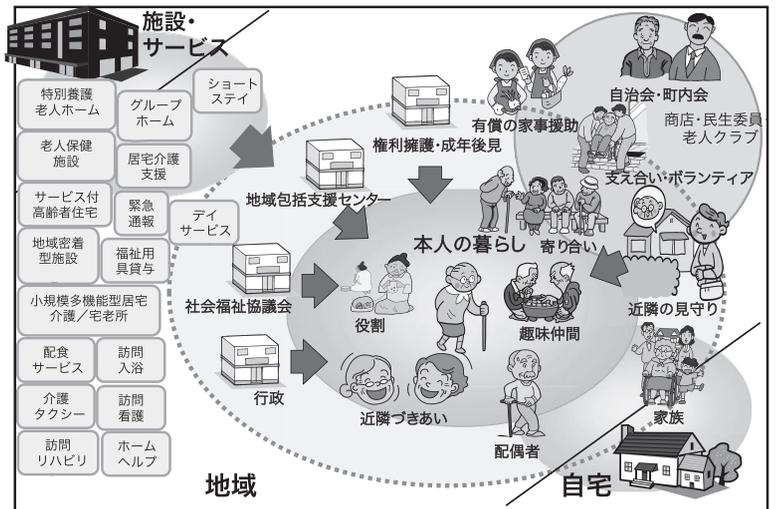
#### ◎つながり広げていく意識を

支え合いは日常の暮らしの中に宿っていて、見える化して広げていくことがとても大切です。友達がいなくて孤立しているように見える人たちも、実はその地域に友達がいなくても、離れたところにつながりがあったりします。たとえばサロンに誘っても出てこない人のことは、サロンのリーダーや民生委員、自治会長が、その方の家の前を毎日のように通り、「電気がついた」とか「きょうは出かけている」などと気にかける。そうして地域とつながりの弱い人を気にかけて、ちょっと困った時に民生委員や包括Cにうまくつなげられて大事に至らなければ、それでいいのではないのでしょうか。つながりをみんなで意識化して広げられたらいいなと思っています。

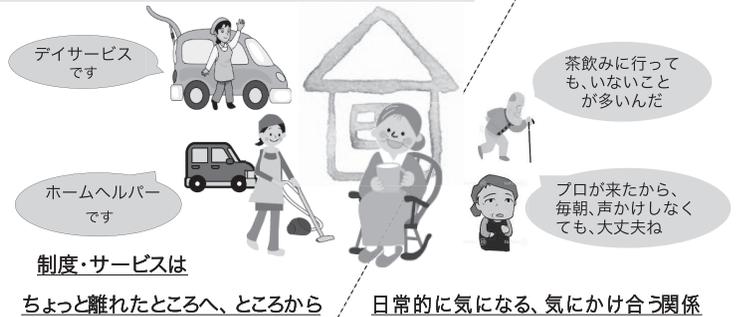


いけだ・まさひろ 全社協、栃木県社協、社会福祉法人東北福祉会「せんだんの杜」(副社長、特養などの施設長併任)を経て、2005年7月から現職。近年は日常の暮らしの中にある住民同士の支え合いを「地域のお宝」とし、制度やサービスを上手に活用しつつ「お宝」を生かす地域づくりを推進。

#### 「住民も専門職もみんなで支え合う地域」⇒改正介護保険

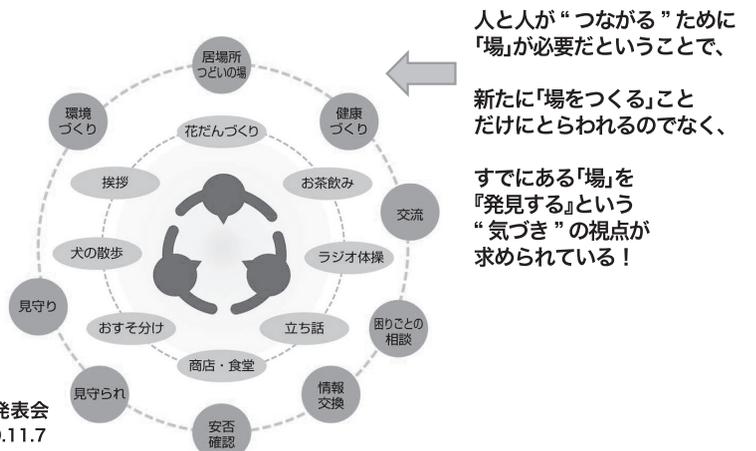


(介護保険サービスを含む)「個別支援」の強化は、「つながり」の希薄化を招く!



◆ 個別支援のサービス提供だけでは、「支え合い」は生まれない!  
◆ 「制度」によるサービスだけでは、つながりも築けない。

#### ふだんの暮らしぶりを教えてもらう!



人と人が「つながる」ために「場」が必要だということで、新たに「場をつくる」ことだけにとらわれるのではなく、すでにある「場」を『発見する』という「気づき」の視点が求められている!



幕別町 地域のお宝発表会 2020.11.7

←幕別会場

↓忠類会場



コロナ禍でも、両会場とも60人超の参加。友人知人と連れ立って、当日参加する人が多く、関心の高さがうかがえた。

5人のおじいさんがほぼ毎日畑に集まる (月刊地域支え合い情報2018年12月号、CLC発行)より (福島県福島市)

